

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社 ナガト 海田工場

(2) 事業所の所在地

広島県安芸郡海田町月見町9番9号

(3) 業種

金属熱処理業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成28(2016)年度を基準年度とし、平成29(2017)年度から平成33(2021)年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

環境方針

1. 省エネルギーにより地球環境を保護し、地域社会との調和を図り、常に省資源に努める。
2. 清らかな環境を求め、継続的に改善し、人に優しいクリーンな企業づくりに徹する。

こころ

地球環境について、今や世界的規模で関心は日増しに高くなっており、日頃の企業活動で環境破壊への歯止めを確実にこなうことが、社会的使命であり、また企業でのテーマでもある。このためには、地球環境にできるだけ負荷をかけない環境への考慮を確実にし、汚染防止、省資源・省エネルギーなど環境改善を継続的に推進して、企業から地域へ、そして地球へと環境を保護することにより、我々の経営基盤の強化及び社会からの信頼をも高めることになるのである。

行動指針

- (1) 当社は金属熱処理加工等の事業活動において、環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守し、環境影響への負荷を低減します。
- (2) 地球環境及び地域社会との調和を考慮し、土壌汚染の予防、ガス・電気を有効的に活用すると同時に、環境保全に努め、廃棄物の削減と処理を、責任を持って確実にを行います。
- (3) 環境マネジメントシステムに基づき、環境に関わる教育により全員の環境意識の向上を図り、1人ひとりが徹底して環境管理活動の推進を図ります。
- (4) 環境目的、目標を定め、定期的に見直しを行い、目標達成、環境への負荷低減に向けて、環境マネジメントシステムの継続的改善を行います。
- (5) この方針は、文書化し、実行、維持して当社の従業員及び取引先に周知させるとともに、一般人より要求があれば文書を提供します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成28(2016)年度	平成28(2016)年度
二酸化炭素	5,981	5,981

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成28(2016)年度	平成28(2016)年度
二酸化炭素	該当なし	該当なし

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成28(2016)年度	平成28(2016)年度
メタン	該当なし	該当なし
一酸化二窒素	11	11
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)	該当なし	該当なし

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量				0
目標設定の考え方				

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

稼働時間 (1000時間)

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成28年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成33年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	5,981	94	63.84	1.0	6,325	100	63.20
非エネルギー起源CO ₂	該当なし						
メタン	該当なし						
一酸化二窒素	10.87	94	0.1160	0.5	11.55	100	0.1154
その他 温室効果ガス	該当なし						
総排出量	5,992	94	63.95	1.0	6,337	100	63.31
エネルギー消費原単位 (原油換算k l)	—	—	24.87	1.0	—	—	24.63
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ は原単位ベース年0.2%の削減 その他は年原単位ベース0.1%の削減						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	稼働率の見直し	総排出量を原単位ベースで平成33年度までに平成28年度比の1%以上削減	<ul style="list-style-type: none"> 空炉時間の削減 操業形態の見直し
2	燃焼条件の見直し		<ul style="list-style-type: none"> 排ガス酸素濃度の測定による燃焼調整の実施
3	省エネ型設備の更新・導入		<ul style="list-style-type: none"> 冷却水ポンプとモータ更新 生産設備の更新

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1	(導入予定なし)	
2		
3		

○ その他の取組み

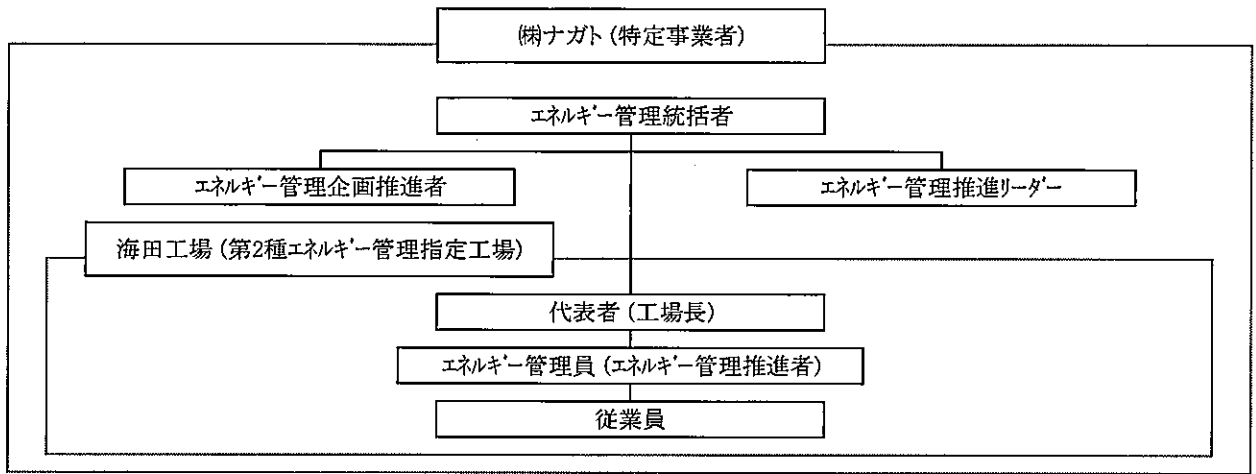
	項目	数値目標	具体的な取組み
1	事務所等照明電力量低減		不要・不在時の消灯の徹底
2	事務所等OA機器電力量低減		不要・待機電力のムダ排除
3	事務所等空調電力量低減		不要・不在時の運転停止と設定温度の省エネ(夏季：28℃, 冬季：19℃)
4	環境づくり、意識付け		ISO9001の2015年度版への移行に伴い、マネジメントシステムの要求事項に「緑化」管理規定を追加した。省エネ活動の周知徹底を強化。

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

省エネ法に準拠した省エネ推進体制を構築し、工場ではエネルギー管理員(エネルギー管理講習修了者)を中心として、温室効果ガス削減のための省エネについて推進・点検を実施している。



(2) 実施状況の点検・評価

- 省エネルギー推進委員会の設置
 - 各工場のエネルギー使用実績報告、問題点の抽出と対策の検討。
 - 省エネ活動成果、改善事例の報告。
 - 管理標準の点検の予定、実施の進捗状況の確認。
 - 管理標準の見直しの必要性の検討。
 - 省エネルギー設備への更新の検討。など
- 3ヶ月毎の省エネ会議及び3ヶ月毎の工場巡視
遵守状況の確認と評価を実施。

(3) 計画書等の公表

社内サーバーにおいて常時閲覧